

# 『持続可能な学校のあり方を探る』本校の取組

本校では「質の高い学び」と「教員の働き方改革」の両立を目指す標記モデル校事業に取り組んでいます。そのきっかけになったのはコロナ禍に揺れた令和2年度のこと。一斉臨時休業や分散登校を強いられる中で子どもたちの健康を第一に考えながら、いかに学校の教育活動を維持・推進していくか、前例にとらわれず柔軟に検討したことがきっかけでした。今月号では市内中学校で唯一のモデル事業参加校である本校の取組をご紹介します。

## 1 新日課表の作成——はじめに「食」ありき

### (1) 給食時間の見直し、「食」の保障

まず着手したのは、子どもたちの学校生活を支える「給食」の開始時刻を従来の12:55から12:35に改めたことです。学校には部活動等で7時から活動している生徒もおり、昼食の時間を早め、かつ、一定に揃えたいと考えました。また、教育活動が12時を過ぎる日には、全生徒に給食を摂らせることにしました。子どもたちの健康を考えると、給食を毎日決まった時間に摂らせ、規則正しい生活リズムを確立することが第一です。

こうした「食」を中心に据えた教育課程の編成は、昨年度まで食育実践推進校として取り組んできた本校の特色の一つだと思います。

	月	火	水	木	金
8:15	健康観察・MNT				
9:00					
昼食	12:35~12:55				
14:55	学校裁量の時間				
16:45					

### (2) 授業時間の検討と健康観察

そこから逆算すると、午前中に50分の授業を4つ行うことが難しくなるので、本校ではすべての授業を45分とし、学習指導のあり方を工夫したり、授業コマを増やしたりすることで対応することにしました。そうすると、登校時に全生徒に声をかけながら健康観察をする時間も確保され、始業前の貴重なコミュニケーション・タイムになっています。

### (3) 学校裁量で放課後を有効活用

45分授業に統一することで14:55に授業が終わるため、放課後に学校裁量の時間を生み出すことができるようになりました。この時間を7つ目の授業コマとして（ANT）学級会や生徒会活動、学校行事の準備や練習等など生徒の活動時間に充てたり、あるいは授業準備や評価を行って質の高い学習として生徒へ還元したりしています。教職員の会議や研修も勤務時間内に設定でき、働き方改革の一助になっています。

## 2 授業時数を確保する工夫——時間割作成時の配慮

### (1) 7コマ授業への対応

通常的时间割で7時間授業を行うと、1日に同じ教科の授業が2回入るケースが生じますが、複数教科で科目を細分化して（国語と言語、理科1分野と2分野、歴史と公民）教員の専門性を生かし、持ち時間数を均等化しながら教科の重複を避けて作成してあります。また、教科ごとの打合せの時間も時間割内に組み込み、放課後の会議日を減らしています。

### (2) モジュール活動の導入

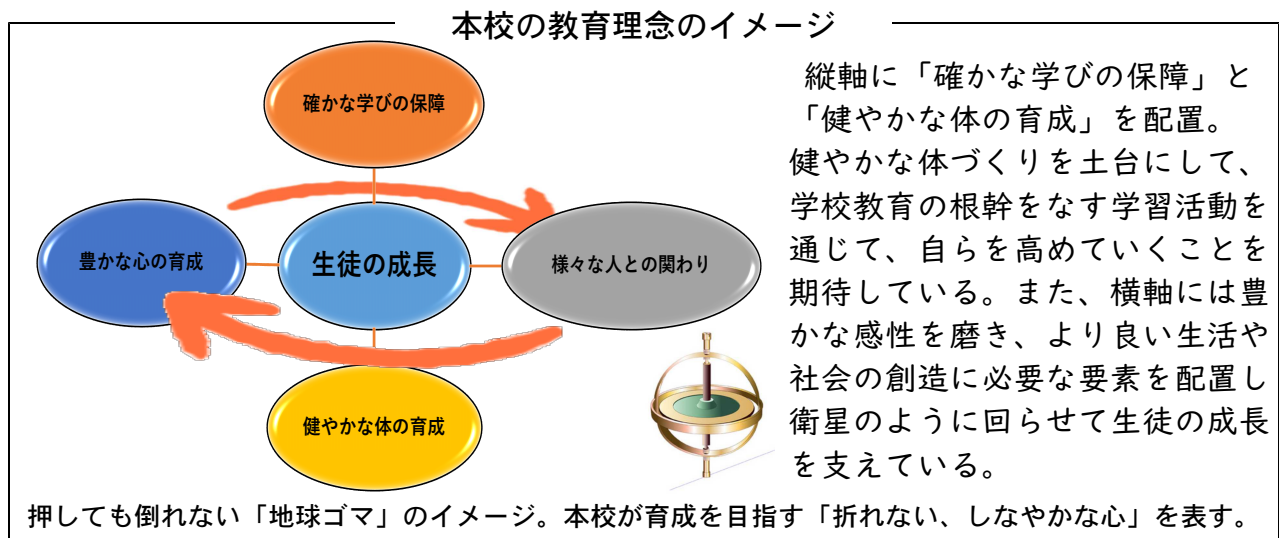
本校の日課表にはM（朝）・L（昼）・A（放課後）3つのNTという時間がありますが、これはN（ネグシ）T（タイム）と呼んでいる10分あるいは30分のモジュール（帯どり）のことです。この時間には小テストを一斉に行ったり、学校行事の練習に充てたりします。必修教科の授業時数を削らずに、必要な時期に必要な活動ができるようにする工夫です。

### (3) 教員一人ひとりの状況に合わせた配慮

介護や育児をしながら勤めている教員、あるいは定期的な出張を要する教員もいます。本校のスライド時間割は、そうした一人ひとりの状況に配慮した編成をしています。特定の時間ばかりが欠番になることなく、生徒の学習機会の保障と教職員の生活の両立を図る時間割となっています。

### 3 教育課程に学校独自の理念を

どの学校にも育成を目指す人物像を描いた学校教育目標があり、それを支える具体的な取組目標を4つの分野にまとめ、「中期学校経営方針」として設定しています。本校では「生徒一人ひとりの個性を大切にしながら、自らの可能性を信じてたえず成長していこうとする人間の育成を目指す。」という教育目標を、4分野が下図のように支えています。



このように、生徒の実状を踏まえて学校独自の教育理念を創り出し、その実現を目指すのに必要な明確な手立てを教育課程に盛り込むことができたことが本モデル校事業における最大の成果だと言えます。

### 4 エビデンスの収集

さて、冒頭に示した「質の高い学び」と「教員の働き方改革」の両立を実現するために今回お伝えしたような工夫を様々に重ねてまいりましたが、令和4年度も前半期を終えて、振り返し点にさしかかった今、生徒・保護者の皆様方から学校の取組を評価していただく時期となりました。24日から「学校評価アンケート」として回答をお願いする予定です。その際には本モデル校事業の成果や課題なども併せてお答えいただけるような質問項目を加えて、本事業のエビデンス（成否の根拠）として集約し、さらなる改善につなげていきたいと考えています。

学校評価アンケートの回答方法については追ってご案内しますが、「Google フォーム」アプリを利用して行うため、Googleアカウントとパスワードが必要になります。その際には、お子さまのGoogleアカウントとパスワードを利用させていただきようお願いします。

#### 【覚書】 お子さまのGoogleアカウントとパスワード

アカウント（先頭にy）： y\_\_\_\_\_ @edu.city.yokohama.jp

パスワード（先頭のみ英字）： \_\_\_\_\_

※お子さまに確認して、記録しておいてください。（文 教務主任 山田 浩一）